

ソフトボールの歴史と発展に関する研究

A study of the history and the development about softball

1K04B240-1

吉形 太佑

指導教員

主査 友添秀則先生

副査 木村和彦先生

動機

私は早稲田大学に入学してからの4年間をソフトボール部で過ごしてきた。日本一になりたいと思い、常に練習に励んできた。少しはうまくなったかもしれない。4年間やっただけの満足感はある。しかしソフトボールに対する知識、歴史はまったく知らないし、日本の現状や世界的にどのように普及しているのかわからない。このままの自分では卒業できないと感じた。

ソフトボールの歴史と発展、現況について調査し、我が国におけるソフトボールの課題、並びに今後の取り組みについて考察することで、日本のソフトボールのさらなる発展の1つになればと思い本研究を取り上げた。

目的

ソフトボールの誕生から現在に至るまでの歴史を明確にすることでソフトボールがどのように発展してきたのかを知る。そしてその発展してきた過程を知ること、今後の課題やソフトボールの普及についての新たな考えを導く。そのために日本だけではなく、アメリカ、ニュージーランドなどの世界の強豪国がどのように発展し、どのような現況であるのかも調べることで、日本だけではなく世界的な普及を視野にいれ研究する。

方法

基本的には文献からの情報を主にして行うがソフトボールは非常に文献の数が少なく、またそれらの文献は情報が古くなってしまふ。そのため、できるだけ新しい情報を得るために、日本ソフトボール協会や海外のソフトボール協会などから情報を収集する。またソフトボール関係者から話を聞き、現状の把握と今後の問題点を明確にする。

第1章 ソフトボールの歴史

ソフトボールの起源から名称統一までの過程を論じる。

英国において12・13世紀に行われたクリケットから派生したと考えられるスツールボールやラウンダースを経て、米国に移入され「ソフトボール」が誕生したと考えられるのである。

第2章 日本ソフトボールの歴史

ソフトボールの日本への伝承とその発展について論じる。

日本における最初のソフトボールは、大正10(1921)年アメリカ留学から帰国した東京高等師範学校

教授大谷武一によって、学校体操科の遊戯として紹介されたことにはじまる。

その後、日本は平成8(1996)年のアトランタ、オリンピックこそ4位に終わり、メダルを逃したが、平成12(2000)年のシドニー・オリンピックではファイナルまで登り詰め、王者アメリカをあと一步のところまで追い詰める死闘を展開した。惜しくも敗れたものの銀メダルを手にし、平成16(2004)年のアテネオリンピックでは2大会連続のメダル獲得という偉業をなしとげた。

第3章 世界のソフトボールの現況

ISF(国際ソフトボール連盟)の現況。また強豪国であるアメリカ、ニュージーランドの現況について論じる。

ISFの活動として、北京オリンピックまでには150ヶ国がISFに加盟することを目標としている。現在、ISFは中東とアフリカでのソフトボールの普及をターゲットにしている。ISFはソフトボールで必要となる道具を買えない国に道具を送るなど、またコーチや指導者なども派遣しソフトボールクリニックなどを行ったりもしている。過去3年間でISFは70カ国にソフトボールの道具を支援し、その費用は約2500万ドルに至る。

第4章 早稲田大学ソフトボール部

早稲田大学ソフトボール部の歴史や発展について、また普及活動の中心となるティーボールについて論じる。

早稲田大学ソフトボール部は総監督である吉村正先生によって創設されたものである。同好会からスタートし、20数年間の活動が認められ、部に昇格した。2005年度に全日本大学選手権大会を制し、初の日本一に輝いた。

終章 今後の課題および本研究のまとめ

1章～4章を踏まえたうえで、今後のソフトボールを普及させるためには何が必要かを考察する。

日本ソフトボール協会、ソフトボールマガジンが日本での唯一の情報源である。協会、マガジンが手を組み、活性化をすることでソフトボールに関わるすべての人達が普及活動に意欲的になれる環境をつくるのが重要である。

またソフトボールをみている観客に楽しんでもらうために、飛ぶボール、飛ぶバットの改良が必要である。

ソフトボール強豪国の日本がソフトボールの普及に力を注がなければ、活性世界的にメジャースポーツになることはないだろう。